

中学一年生の外国語（英語）教科書分析

— 小中接続の視点から指導のポイントを探る —

白 土 厚 子

1. はじめに

2020年度から教科として全面実施となった小学校高学年の外国語科では、「言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」を育成することを目指している（文部科学省, 2017a, p. 67）。2021年度から施行されている中学校学習指導要領でも、「言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」の育成を目指している（文部科学省, 2017b, p. 10）。つまり小学校同様、言語活動の重視が謳われ、ますます小中接続の必要性が増している。

では、2021年度から使用されている学習指導要領（文部科学省, 2017b）に基づく中学校外国語科の検定教科書には、小学校との接続や小学校で重視されている言語活動をさらに発展させるために、どのような特徴や工夫があるのか。小中接続の視点から、教科書の工夫や特徴を十分に理解し、それらを活かした指導方法が求められている。

2. 研究の背景

まず、現状として小中接続の困難さがある。文部科学省（2016）の調査や清水（2019）、松本・染谷（2021）らの研究によると、2011年から領域として小学校高学年に外国語活動が導入されたことにより、英語の音声を容易に聞き取り、使用できる語彙や表現が多い生徒が増えた反面、英語能力の個人差や出身学校間の差が大きいといった問題が挙げられている。そのため中学校で

は、小学校で蓄積された体験的な英語表現を土台とした学習展開を継続することが難しく、小学校の学習内容を再度学習したり、定着していない学習内容を既習事項と見なし中学校の学習にそのまま取り組んだりせざるを得ないため、生徒の意欲を損なう結果となっている。つまり、小学校での学びを活かした円滑な接続がまだ十分になされていない状況である。

一方小学校高学年では、2020年度から外国語科で検定教科書が使用されるようになった。その教科書分析では、学習指導要領の目標である「言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力」(文部科学省, 2017a)を育成するため、スモールステップで自分の気持ちや考えを伝え合う活動や、複数の単元をまとめた言語活動が学期毎に配置されるなど、児童が目的を達成するために場面・状況に応じて考えを深めて内容を整理し、必要な語句や文などを取捨選択して自分事として表現できる様々な工夫が確認された(白土, 2022a)。

3. 研究の目的

上記の研究の背景を踏まえ、本研究では小中接続の視点から、小中の外国語科の検定教科書を出版している6社の中学一年生の教科書を内容と構成の両面から分析する。特に、小学校の文構造から中学校の文法事項への接続と、小学校の学びを踏まえた中学校の言語活動へのつながりを中心に調査し、さらに小学校の教科書分析の知見(白土, 2022a)も活用して、小学六年生と中学一年生の接続期間にどのような指導を行えばよいのかを考察し、教科書の接続の工夫や特徴を活かすための指導のポイントを探る。

4. 研究の範囲

まず、小中の接続期間を調べた。小学校学習指導要領解説(文部科学省, 2017a)の次の文及び文構造の記述から、中学一年生の重要な新文法項目は「一般動詞現在形三人称単数の用法」であり、その前までを小学校での学習内容の復習と定着・応用の時期、つまり小中接続期間と判断した。

小学校学習指導要領解説・外国語編（p. 91～）

〔知識及び技能〕(1) 英語の特徴やきまりに関する事項 エ 文及び文構造

・ He is a good soccer player.

・ She can swim fast.

は示されている。

・ She swims fast. 等の文はない。

一般動詞現在形三人称単数の用法が中学一年生の重要な新文法項目

（中学一年生外国語検定教科書編修趣意書等からも明らか）

その前の单元まで

小学校で学習した文及び文構造の内容に関する復習と定着・応用の時期と捉える。

そこで、小学六年生（以降小6）と中学一年生（以降中1）の外国語科の教科書をこの時期を中心に分析を行うこととし、次の6社の小6と中1の外国語科の検定教科書を使用した。

- ・ 啓林館：『Blue Sky elementary 6』・『BLUE SKY English Course 1』
- ・ 三省堂：『CROWN Jr. 6』・『NEW CROWN English Series 1』
- ・ 光村図書：『Here We Go! 6』・『Here We Go! ENGLISH COURSE 1』
- ・ 開隆堂：『Junior Sunshine 6』・『Sunshine ENGLISH COURSE 1』
- ・ 東京書籍：『NEW HORIZON Elementary 6』・『NEW HORIZON English Course 1』
- ・ 教育出版：『ONE WORLD Smiles 6』・『ONE WORLD English Course 1』

5. 研究の方法

本研究の目的を達成するため、これら4項目で分析を行い、項目毎にまとめと考察、指導のポイントを記述していく。

- (1) 小6と中1の教科書の構成比較（共通点と相違点）
- (2) 中1の教科書での小6の教科書の文及び文構造の扱いと文法事項への接続
- (3) 中1の教科書での小6の教科書の語彙・表現の扱いと言語活動へのつながり
- (4) 中1の教科書での小5・6の教科書の題材や使用場面の扱い

6. 分析の結果

6.1. 小6と中1の教科書の構成比較（共通点と相違点）

まず、小6と中1の教科書の構成を比較し、共通点と相違点について調べた(表1参照)。特に、中学校学習指導要領外国語編解説では、小学校学習指導要領同様、言語活動とそれ以外の活動を区別し、言語材料を理解し練習する活動は必要だが、ただ繰り返し行うのではなく、目的や使用場面を意識した言語活動の必要性を明示している(文部科学省, 2017b)。

そこで、6社の小6と中1の教科書の構成比較を見ていく。共通点として、中1の各教科書にも小6の教科書同様、太字で示した **Project, You Can Do It! Stage Activity** といった言語活動があり、それにつながるように各単元に、二重線で示した Drill や Practice といった文法事項の練習から、使用場面や目的を明確にした活動で使用していく Use へとつながっている。また、5領域マークで活動を分かりやすく示している。

一方、相違点として波線で示した文法のまとめや英語のしくみ等で理論的に英文法を説明し、Let's Talk, Take Action! Talk, Small Talk のように、即興的なやり取りの活動がある。さらに中1の教科書では、下線で示したように読む・書く活動が増えている。

表1 小6と中1の教科書の構成比較

	小学6年生	中学1年生
A	Pre Unit + 8 Units (扉+ 3 Parts) *Part 末に Activity 有 ・ 3 Reviews, 1 Story *5 領域マーク有	Let's Start + 10 Units (3 Parts) *各 Part: Get Ready- <u>Practice-Use</u> の構成 (Unit 1 のみ 2 Parts, Target 無), 3 Projects ・ 9 Let's Talk (即興的なやり取り), 3 Let's Listen, 2 Let's Read, 3 Projects , 10 <u>Targets</u> (<u>文法のまとめ</u>) 2 <u>Read and Think</u> (長めの英文の読み取り) *5 領域マーク有
	3 Units *各 Unit: HOP, STEP, JUMP *HOP: Get Ready 有 *STEP: 2~3 Lessons *JUMP: Presentation *5 領域マーク有	Starter + 8 Lessons + 3 Projects [Lesson 3 まで] 3 Parts [Lesson 4 以降] <u>GET-USE</u> (Speak/Write) *各 Lesson に <u>POINT</u> と <u>Drill</u> 有 ・ 6 GET Plus (実際に英語を使う場面で) 6 Take Action! Listen (現実的な音声聞き取り) 6 Take Action! Talk (即興的なやり取り) 2 Reading for Information, 3 Projects , 8 <u>文法のまとめ</u>

		<p>1 <u>Reading for fun</u> (文学作品を読む楽しさ)</p> <p>*5 領域マーク有</p>
C	<p><u>Let's Start + 9 Units</u></p> <p>*各 Unit: Hop!+1~2 Steps+ Jump! (You can do it!)</p> <p>・ 3 Reviews, 9 Fun Time</p> <p>*5 領域マーク有</p>	<p><u>Let's Be Friends! + 8 Units (扉-3 Parts-Goal)</u></p> <p>・ 3 You Can Do It!</p> <p>5 Daily Life (日常生活に直結した場面)</p> <p>2 <u>Let's Read</u> (読み物), 2 World Tour (多様性等)</p> <p>6 <u>Active Grammar</u> (文法のまとめ)</p> <p>Let's Talk! (帯教材、即興的なやり取り)</p> <p>*5 領域マーク有</p>
D	<p><u>11 Lessons (Let's Try!)+2 Projects</u></p> <p>・ 2 Projects, 2 チャレンジ</p> <p>10 文字に慣れよう</p> <p>*5 領域マーク有</p>	<p><u>Get Ready + PROGRAM 0 + 10 PROGRAMs</u></p> <p>(扉-Scenes : 練習・活用-Think-Interact-<u>英語のしくみ</u>)</p> <p>・ 3 Our Project, 5 Word Web (語彙力の増強),</p> <p>6 Power-up (特定場面での Listening & Speaking, <u>Reading & Writing</u>)</p> <p>7 Steps (Our Project で役立つやり取り)</p> <p>Steps 1, 4, 7 (即興的なやり取り)</p> <p>Steps 2, 3, 5, 6 (発表内容を整理・表現)</p> <p>*5 領域マーク有</p>
E	<p><u>8 Units (Starting Out-Your Turn-Enjoy Communication-Over the Horizon)</u></p> <p>*各ページ: Small Talk, Sounds and Letters 有</p> <p>・ 3 Check Your Steps</p> <p>*5 領域マーク有</p> <p>*Picture Dictionary 別冊</p>	<p><u>Unit 0 + 11 Units</u></p> <p>[Unit 5 まで] 3 Parts + Enjoy Communication + Sounds and Letters</p> <p>[Unit 6 以降] Starting out + Preview + 3 Stories (<u>Practice</u>) + Mini Activity + Unit Activity</p> <p>・ 3 Stage Activity, 7 <u>Grammar for Communication</u></p> <p>4 Let's Talk, 3 Let's Listen, 2 <u>Let's Read</u>,</p> <p>2 <u>Let's Write</u> [Unit 6 以降],</p> <p>2 Small Talk (即興的なやり取り)</p> <p><u>Learning LITERATURE in English</u> (物語)</p> <p>*5 領域マーク有</p>
F	<p><u>Let's Start Together + 9 Lessons</u></p> <p>(各 Lesson: Activities + Final Activity + Sounds and Letters + Review)</p> <p>・ 2 Let's Read and Act</p> <p>2 Let's Look at the World</p> <p>*5 領域マーク有</p>	<p><u>Springboard + 9 Lessons</u></p> <p>[Lesson 3 まで] 3 Activities + <u>Grammar</u></p> <p>[Lesson 4 以降] 3 Parts + Review + Task + <u>Grammar</u></p> <p>4 Tips for Writing/Listening/Reading</p> <p>・ 3 <u>Readings</u>, 2 Projects</p> <p>1 Useful Expression (特定の場面の表現),</p> <p>1 <u>Further Reading</u>,</p> <p>5 Activities Plus (即興力養成)</p> <p>*5 領域マーク有</p>

つまり、共通点としては、5領域をマークで示し、言語活動を重視していることが挙げられる。相違点として、中1の教科書には、文法のまとめがあり、話す[やり取り・発表]で「即興」を重視している。これは小学校の「その場で」伝え合う力が中学校につながっていると分析できる。また、文法項目を取り出してドリル的に練習した後、それを異なる領域の活動で練習、定着を図り自己表現活動につながるよう段階的に配置している。さらに、「読む」「書く」活動が小学校より重視されていることも分かる。3社の教科書(B, E, F)では小学校との接続期間と中学校の学びの期間で構成を変えている点も注目すべきポイントである。

そこで小6と中1の教科書の構成比較の分析から、まとめと考察、指導のポイントを示す。

まとめと考察

どの教科書も学習指導要領解説の通り、「言語材料について理解したり練習したりするための指導」をドリル等で行いながら、徐々に生徒が「言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行う」ことができる活動につながる構成になっている。

B, E, Fの教科書は、接続期間を小学校の教科書の構成にあわせている。特にE教科書は、構成上の共通点が最も多く(Enjoy Communication, Sounds and Letters, Small Talk)、生徒がスムーズに中学の外国語学習に馴染める構成的配慮がある。

指導のポイント

中1では「読む・書く」の活動が増えているが、第二言語習得の観点からも、まず小学校の基本的な指導方法である「聞く」活動から入り、5領域のバランスやインプットからアウトプットへの流れを意識した指導が大切である。

小6では、中学校の即興力の土台となるよう、Small Talk等で「その場で」話す[やり取り]の力や[発表]で「伝えようとする内容を整理したうえで話す」力をつけていくことが中学との接続で重要である。

6.2. 中1の教科書での小6の教科書の文及び文構造の扱いと文法事項への接続

(1) 中1の重要な新文法項目の時期とそれまでの指導

研究の範囲で示した通り小中接続の期間は、中1の重要な新文法項目「一般動詞現在形三人称単数の用法」の前の単元までと考えられる。そこで、ま

ず表2よりその時期を各教科書から確認する。

表2 中1の重要な新文法項目の時期

教科書	一般動詞三人称単数形 / 総単元数	指導時期 (3期制)
A	Unit 6 / 10	2学期中ごろ
B	Lesson 4 / 8	2学期始め
C	Unit 6 / 8	2学期後半
D	PROGRAM 5 / 10	2学期中ごろ
E	Unit 6 / 11	2学期中ごろ
F	Lesson 3 / 9	1学期後半

中1の重要な新文法項目の時期の分析(表2)から、接続期間のまとめと考察、指導のポイントを示す。

まとめと考察

中1の新文法項目「一般動詞現在形三人称単数の用法」の指導は、6社中5社の教科書が2学期(3期制)あるいは9月以降になっている。残りの1社の教科書(F)では、1学期の後半(3期制)あるいは6月以降に学習するLesson3で出てくるが、Lesson3までは、小学校の学び方(聞く・話す重視)を踏襲した構成になっている(表1・表3参照)ため、指導方法は変更せずに指導内容に集中して進めることができる。

指導のポイント

教科書の構成から、中1の1学期間あるいは夏休み前までの期間を費やし、時間をかけてしっかり小学校で学んだ「文及び文構造」の復習と「文法」としての理解・定着を図る指導をすべきである。教科書をうまく活用し、先行研究で明らかになった現状(松本・染谷, 2021)を踏まえ、出身学校の英語の学習状況を調査し個々の生徒の英語能力を見取ったうえで、丁寧に指導する必要がある。

(2) 小6の文及び文構造と中1の文法事項の比較と接続の工夫

中学校学習指導要領解説・外国語編の第2節 文、文構造及び文法事項から、小学校の「文」の中で扱われてきた「文及び文構造」は、中学校では「文、

文構造及び文法事項」として扱われ、小学校の「文及び文構造」として指導してきた内容は「別の場面や異なる表現の中で活用できる」ように、つまり理解・定着・応用、さらには言語活動へつながるように指導していくことが求められる（文部科学省，2017b, p. 36）。そこで、表3に各教科書の小6の「文及び文構造」と中1の「文法事項」の比較と接続の工夫の分析結果を示す。

表3 小6の「文及び文構造」と中1の「文法事項」の比較と接続の工夫【AとB】

	小5・6「文及び文構造」	中1「文法事項」
A	文のルール，基本的な be 動詞，一般動詞の文，名詞の複数形の文，how many の文，can の文，基本的代名詞の文	Unit 1: 文のルール Unit 2: be 動詞の肯定文・否定文・疑問文 Unit 3: 一般動詞の肯定文・否定文・疑問文 Unit 4: 名詞の複数形+可算・不可算名詞+how many Unit 5: can の肯定文・否定文・疑問文，代名詞の格変化
工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ Small Step (Get Ready-Practice-Use)で練習しながら自己表現活動 (Project) へ ・ 5 領域の活動 (聞く・読む・話す [やり取り・発表]・書く) がある ・ Target (文法のまとめ) 後に Let's Try で文法事項を活用したやり取りを設定 	
B	文のルール，基本的な be 動詞の文，一般動詞の文，can の文，名詞の複数形の文，名前のローマ字表記，基本的な命令文，疑問文，小文字の書き方，基本的代名詞の文	Lesson 1: 文のルールの復習+語順，am, are の肯定文・否定文・疑問文，一般動詞の肯定文・否定文・疑問文 Lesson 2: can の肯定・否定・疑問文，名詞の複数形+可算・不可算名詞，名前のローマ字表記 Lesson 3: is の肯定文・否定文・疑問文，命令文 (Let's を含む)，疑問文+some/any，小文字の正しい書き方 Lesson 4: 代名詞の格変化一覧
工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ Lesson 3 まで: 「聞いてみよう」で小学校の学びを振り返り「話してみよう」でやり取りや発表をする→文法事項・文構造の整理 (POINT)、絵や語句を参考に整理した文を練習 (Drill)→POINT 文を含む英文を読み (Read)、短い文脈の中で活用して書く (Write)→Project (自己表現活動) ・ Lesson 4 以降: 文法事項や語句・表現等を 4 技能の活動で身に付ける (GET)→知識・技能を活用して読む (USE Read)→知識・技能を活用して話す/書く (USE Speak/Write)→文法のまとめ→自己表現活動(Project) 	

接続の工夫として中1の教科書では、構成分析でも明らかになったように文法項目として取り出して練習する Practice や Drill から練習した文法を異なる領域の活動で活用し、言語活動としての Project につないでいることが分かる。B 教科書では、小中接続期間とそれ以降で構成を変えているため、接続期間は聞く活動から話す活動が中心となっている一方、それ以降では文法

事項の活用を書く活動が目立つ。

表4 小6の「文及び文構造」と中1の「文法事項」の比較と接続の工夫【CとD】

	小5・6「文及び文構造」	中1「文法事項」
C	基本的な be 動詞の文、一般動詞の文、can の文、疑問文、命令文、代名詞の文	Unit 1: I + be 動詞、一般動詞、can の文 Unit 2: You + be 動詞、一般動詞、can の文 Unit 3: be 動詞、一般動詞、can の文のまとめ、疑問詞の文 Unit 4: this/that is, she/he is, + who の文 Unit 5: where, when の文、命令文、代名詞の格変化一覧
工夫	・学ぶべき文型・文構造等を含む本文のインプット (Listen and Read)→聞く(Listen) - 話す (Speak) - 書く(Write) の活動を通して知識・技能の定着を目指す→学んだことを活かした <u>5 領域活動 (Goal)</u> →Active Grammar (文法のまとめ)→自己表現活動 (<u>You Can Do IT!</u>)	
D	基本的な be 動詞の文、疑問文、一般動詞の文、can の文	PROGRAM 1: be 動詞肯定文・否定文・疑問文、where の文 PROGRAM 2: 一般動詞の文、名詞の複数形+when の文 PROGRAM 3: can の肯定文・否定文・疑問文、what の文 PROGRAM 4: this/that is の文、she/he/it の文、who の文、which/whose の文
工夫	・新しい文や表現を導入し簡単な活動で理解 (Scenes)→まりまりのある文章を読み内容を考え自分の言葉で再現 (Think: Q & A)→学んだ表現を使ってやり取り等 (<u>Interact</u>)→学んだことの整理 (英語のしくみ)→自己表現活動 (<u>Our Project</u>)	

文法を異なる領域の活動で活用する方法では、それぞれの教科書に特徴がある。CとDの教科書でも、練習や活用から言語活動 (You Can Do IT! や Our Project) へという流れはA, Bの教科書と同じだが、活用の段階となる単元の Goal や Interact に「読む・書く」だけでなく、「聞く・話す[やり取][発表]」も加えた様々な活動を組み込んでいる。

表5 小6の「文及び文構造」と中1の「文法事項」の比較と接続の工夫【EとF】

	小5・6「文及び文構造」	中1「文法事項」
E	基本的な be 動詞の文、一般動詞の文、疑問文、can の文	Unit 1: be 動詞、一般動詞、can の肯定文・疑問文・否定文 Unit 2: this/that is, she/he is の文、what/who/ how/ what の疑問文、be 動詞、一般動詞のまとめ Unit 3: I want to の文+疑問詞の文、 名詞の複数形+可算・不可算名詞 Unit 4: 命令文、what+名詞の疑問文、疑問文のまとめ Unit 5: 前置詞、動名詞、過去形の肯定文

工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 5 まで: 「音」から「文字」につなげ、小学校の気づきを文法として整理→Grammar for Communication の後 Let's Try! で活用→自己表現活動(Stage Activity) ・Unit 6 以降: 新文法の目的・場面・状況の理解→本文(聞く・読む)に関連する場面で意味を重視した練習(Practice)→Grammar for Communication, Let's Try! で活用 				
F	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="169 300 421 432">基本的な be 動詞の文、一般動詞の文、疑問文、can の文</td><td data-bbox="421 300 954 432"> Lesson 1: be 動詞、一般動詞+英語の語順+疑問文、命令文 Lesson 2: she/he/it is, this/that is, we/you/they are の肯定文・疑問文、can の文+some/any Lesson 3: 名詞の複数形+可算・不可算名詞、代名詞格変化 </td></tr> <tr> <td data-bbox="124 432 169 600">工夫</td><td data-bbox="169 432 954 600"> <ul style="list-style-type: none"> ・Lesson 3 まで: 5 領域の活動(Activity)の中で、小学校の語彙・表現・文構造を復習・活用→Grammar で整理→自己表現活動(Project) ・Lesson 4 以降: 本文(聞く・読む)で新出語彙や文法の場面や働きを理解→基本文の練習(Tool Kit)→基本文の場面理解(Listen)→思考を働かせて話す・書く(Think & Try!)→Review→活用(Task)→Grammar→自己表現活動(Project) </td></tr> </table>	基本的な be 動詞の文、一般動詞の文、疑問文、can の文	Lesson 1: be 動詞、一般動詞+英語の語順+疑問文、命令文 Lesson 2: she/he/it is, this/that is, we/you/they are の肯定文・疑問文、can の文+some/any Lesson 3: 名詞の複数形+可算・不可算名詞、代名詞格変化	工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・Lesson 3 まで: 5 領域の活動(Activity)の中で、小学校の語彙・表現・文構造を復習・活用→Grammar で整理→自己表現活動(Project) ・Lesson 4 以降: 本文(聞く・読む)で新出語彙や文法の場面や働きを理解→基本文の練習(Tool Kit)→基本文の場面理解(Listen)→思考を働かせて話す・書く(Think & Try!)→Review→活用(Task)→Grammar→自己表現活動(Project)
基本的な be 動詞の文、一般動詞の文、疑問文、can の文	Lesson 1: be 動詞、一般動詞+英語の語順+疑問文、命令文 Lesson 2: she/he/it is, this/that is, we/you/they are の肯定文・疑問文、can の文+some/any Lesson 3: 名詞の複数形+可算・不可算名詞、代名詞格変化				
工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・Lesson 3 まで: 5 領域の活動(Activity)の中で、小学校の語彙・表現・文構造を復習・活用→Grammar で整理→自己表現活動(Project) ・Lesson 4 以降: 本文(聞く・読む)で新出語彙や文法の場面や働きを理解→基本文の練習(Tool Kit)→基本文の場面理解(Listen)→思考を働かせて話す・書く(Think & Try!)→Review→活用(Task)→Grammar→自己表現活動(Project) 				

E と F の教科書では、練習、活用、そして言語活動(Stage Activity や Project)へという流れは他の教科書と同じだが、B 教科書同様、小中の接続期間とそれ以降で構成を変え、接続期間では小学校の学びのプロセスを活かした文法指導ができるようになっている。

これらの分析結果を基にまとめと考察、指導のポイントを示す。

まとめと考察-1

どの教科書も文法のまとめとして、英語のしくみ、Target, Grammar, Grammar for Communication 等名前は異なるが、文法事項として小学校で学んだ文及び文構造を理論的・体系的に図などを用いて視覚的にもわかりやすくまとめている。また、Let's Try! や Task 等で Drill, Practice の練習から確認や活用へつなげている。

一方、小学校との接続の単位にも、小学校とは異なる文法用語として、文の種類(肯定文・否定文・疑問文・命令文)、文の成分(主語・動詞・疑問詞等)、動詞の種類(be 動詞・一般動詞)、品詞(名詞・代名詞等)等の用語が使われているため、それらの用語に難しさを感じる可能性がある。

指導のポイント-1

文法用語の意味を分かりやすく説明し、生徒がこれらの用語のために中学校での外国語学習の入り口で戸惑わないように注意すべきである。

まとめと考察-2

文構造から文法事項への接続時に、文法事項の説明や語句等の入れ替えによる単なるドリルだけでなく「異なる表現の中で活用できる」ように、練習から活用のプロセス（ドリル練習→異なる表現の中での活動→自己表現活動）は、教科書によってさまざまな工夫が見られる。例えば、文法のまとめの後に、Let's Try! を使って理解を確認する設定が、A、Eの教科書にある。具体的には、短い「聞く・読む・話す・書く」活動の後に文法のまとめがあり、その後 Let's Try! で文法事項を活用したやり取り等が設定されている。

また、どの教科書も小学校とは異なり、「書く」活動を文法事項の確認・活用に用いている。これは、中学校の学習指導要領解説 第2節英語（5）書くことで、「文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に捉え、整理したり確認したりしながら書くこと」（文部科学省 2017b, p. 26）と記されていることに基づいていると考えられる。つまり、「正確に」書くことを重視していることが分かる。

指導のポイント-2

指導者が教科書の特徴をよく知り、生徒が十分文法事項を理解し異なる文脈で使えるようになっていくかを授業の中で見取り、生徒に適した指導方法を考えるべきである。「中学校の言語活動で、意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるよう様々な言語活動を工夫し、言語の運用能力を高めることが必要である」（文部科学省, 2017b, p. 29）とあるように、接続期以降に「書く」活動を重視しているB教科書の場合、その前に Get Plus や Try のページを活用し、自己表現に活用できる「話す〔やり取り〕」の力を養うことも大切である。

一方、B教科書ではローマ字での名前の書き方や小文字の書き方を取り上げているが、それ以外の教科書では、小学校との接続のページ（Let's Start, Starter 等）以外に書き方について練習や復習のページはない。なぜなら、アルファベット文字の扱いに関しては、中学校学習指導要領解説 第2節（5）書くことで「アルファベットの活字体の大文字と小文字は、小学校の外国語科において指導する内容となっている」（文部科学省, 2017b, p. 26）と記述されているからである。このことを念頭に、小学校でアルファベットの活字体の大文字小文字や児童の名前の書き方をしっかり指導し、定着を図っておく必要がある。

6.3. 中1の教科書での小6の教科書の語彙・表現の扱いと言語活動へのつながり

中学校学習指導要領解説 第2節 (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 ①言語活動に関する事項から、小学校の学び（語句や表現、文字認識や語順への気づき）を「中学校の言語活動で繰り返し活用する」ことが必要であることが分かる（文部科学省 2017b, p. 55）。そこで、中1の教科書に小学校の学びを活かした言語活動とそこで使用できる小学校の語彙のまとめやそれらの語彙の見つけやすい工夫があるかを分析した。

表6 中1の教科書での小6の教科書の語彙・表現の扱いと言語活動へのつながり

教科書	中学校の言語活動
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ Unit 末の Let's Talk で身近な場面で既習表現を活用した実践的なやり取り ・ 年3回の Let's Listen で身近な場面で必要な情報を聞き取り活用する ・ 学期末の Project で5領域を総合的に活用して課題を解決する言語活動有 *自分の言葉で表現する際に役立つ Tool Box (語彙) や巻末の Word Box 有 【Lesson 5 まで】 *Project 1: 小学校の既習語彙・表現・文構造を使って自己紹介をする *Word Box に Let's Start で使える小学校で学んだ語彙・表現を表示
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学期末の領域統合型の活動 Project で学んだ力を活用する言語活動を行う ・ GET Plus で実際に言語を使う場面で活用できるよう練習する *ページ下部に小学校で学んだ語句の表示や Write に Word Bank 有 【Lesson 3 まで】 *Project 1: 小学校の既習語彙・表現・文構造を使って理想のロボットを発表 ・ Take Action! Talk 1: 「会話を始める」「あいづちを打つ」をポイントに特定の場面で、小学校既習語彙・表現・文構造を使って即興で伝え合う ・ Reading for Information 1: 目的・場面・状況に応じて必要な情報を読み取る
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ Unit 末 Goal で既習語彙や表現を生かした自己表現活動を行う ・ 年3回の You Can Do It ! はプロジェクト型の5領域を統合した言語活動 *小学校で学んだ単語は巻末の Word List にマークをつけて提示 【Unit 5 まで】 ・ Goal: 小学校の既習語彙・表現・文構造を使った自己表現活動 *You Can Do It! 1: 小学校の既習語彙・表現・文構造を使って自己紹介をし合い友だちとの共通点や相違点を見つける
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ PROGRAM 末の Interact は 既習表現を使った自己表現活動 ・ 年3回の Our Project は5領域を統合的に活用した言語活動 (Steps を活用しスピーチの内容を整理するマッピングの手法を導入) ・ Power-up は場面に特化した課題解決型コミュニケーション活動 *小学校で学んだ単語のリストが巻末資料に有 【PROGRAM 4 まで】 ・ Interact: 小学校の既習表現等を使った自己表現活動 *Our Project 1: 小学校の既習語彙・表現・文構造を使って「他の人が知らない自分のこと」を発表する

E	<ul style="list-style-type: none"> ・ Mini Activity, Unit Activity と活動を積み上げた知識・技能を Stage Activity (学期末)で総合的言語活動 へ ・ Small Talk は即興的なやり取り ・ Let's Talk/Listen/Read/Write は場面に特化した課題解決型コミュニケーション活動 (語彙サポート: ページ内の Tool Box や巻末に Word Room 有) <p>*小学校の単語を「小」というアイコンでページ端や巻末に示す</p> <p>【Unit 5 まで】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5 領域の活動から統合型言語活動 Stage Activity 1 へ <p>*Enjoy Communication + Your Turn : 小学校の関連表現を使った練習と活用</p>
F	<ul style="list-style-type: none"> ・ Think & Try! や Task, Tips の Let's Try!を生かし、2 回の Project で課題を達成する言語活動を行う <p>*巻末の Word List ①に小学校で学習した語をグループ別に表示</p> <p>【Lesson 3 まで】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Activity 3: 小学校の既習語彙・表現・文構造を使って 5 領域を総合的に活用した言語活動を行う <p>*Activity Plus 1: 小学校で学んだ表現を使った活動</p>

構成の比較 (6.1) や文法事項の分析 (6.2) で明らかになったように、小学校の学びを踏まえた言語活動が設定されている。例えば、言語活動に小学校の既習語彙・表現・文構造を活用できるよう、Word Box や Word Bank を設定したり、各ページの下部に小学校で学んだ語句を表示したり、Word List にマークや「小」というアイコンをつけて提示したり、小学校で学んだ単語のリストを巻末資料で提示したりしている。また、Project 等の言語活動でも小学校で学んだ表現や文構造を使える課題やトピックが与えられている。さらに、接続期間とそれ以外で異なる構成をとっている 3 社の教科書 (B, E, F) では、接続期間の言語活動では、小学校で扱われた課題やトピックだけでなく、既習語彙・表現・文構造を活用できる内容となっている。

そこで、中 1 の教科書での小 6 の教科書の語彙・表現の扱いと言語活動へのつながりの分析から、以下にまとめと考察、指導のポイントを示す。

まとめと考察

どの教科書も 5 領域統合型の活動 (Project, You Can Do It! Our Project, Stage Activity, Activity 3 等) で学んだことを活かした自己表現活動を設定している。その過程ではドリルの後、Small Step (Let's Talk, Goal, Interact, Enjoy Communication と Your Turn, Activity 2 等) で、徐々に自分の気持ちや考えを整理し伝える活動へつなげている。

教科書Bは、「読む・書く」で自分の気持ちや考えを伝える活動を重視しているが、Get Plus・Tryで実際に言語を使う場面での「話す〔やり取り〕」も設定している。

どの教科書も小学校で学んだ語彙や表現を巻末の語彙リストにまとめたり、ページ下部等にマークをつけて表示したりして、常に活用できるような工夫がある。小学校での学びを活かしたスムーズな言語活動へつながる構成になっていると考える。

指導のポイント

教科書の構成面だけでなく、生徒が小学校の学び方とのギャップを感じないよう、小学校で重視している言語活動を中学校でも大切にその力をさらに高めていくという姿勢を指導者がしっかり授業で示すことが大切である。また、音声を中心に学んできた生徒の中には、小学校で学んだ語彙や表現であっても、まだ音声なしに文字だけでは十分に読めない生徒もいるという認識も必要である。

6.4. 中1の教科書での小5・6の教科書の題材や使用場面の扱い

中学校学習指導要領解説 第2節 (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 ②言語の働きに関する事項では、「第1学年において言語活動を行う際には、小学校でも慣れ親しんだことのあるような身近な言語の使用場面や言語の働きを取り上げることで、中学校における外国語学習の円滑な導入を図ることが重要である」(文部科学省 2017b, p. 69) と記述されており、小中でトピック(題材)や使用場面のつながりが重要だと分かる。そこで、各教科書ではどのような工夫があるかを調べた。

表7 小5・6年生と中1の教科書の題材と使用場面のつながり

教科書	小学5・6年生	中学1年生
A	5年 Unit 1 (自己紹介) 6年 Unit 1 (自己紹介) 5年 Unit 8 (値段) 5年 Unit 4, 5 (人物紹介) 5年 Unit 7 (道案内) 6年 Unit 4, 5「夏休みの思い出」「週末の出来ごと」	Unit 1 (自己紹介) Project 1 (自己紹介) Let's Talk 3 (値段) Unit 5 (人物紹介) Let's Talk 6 (道案内) Unit 9「冬休みの思い出」

B	5 年 Presentation 1（自己紹介）	Lesson 1（自己紹介）
	5 年 Lesson 2（できること）	Lesson 2（できること）
	6 年 Presentation 1（学校紹介）	Lesson 3（学校・町紹介）
	5 年 Presentation 3（日本のお勧め）	Lesson 6（日本文化・名所）
	6 年 Lesson 7（日本や他国の文化）	
	5 年 Try（道案内）	Take Action! T4（道案内）
C	5 年 Unit 1（自己紹介）	Unit 1（自己紹介）
	6 年 Unit 1（自己紹介）	You Can Do It! 1（自己紹介）
	6 年 Unit 9（中学校生活）	Unit 2（部活動）
	6 年 Unit 4（夏休み）	Unit 3（夏休みの過ごし方）
	6 年 Unit 5（人物紹介）	Unit 4（人物紹介）
	6 年 Unit 2（日本の行事）	Unit 7（日本の正月）
D	5 年 & 6 年 Lesson 1（自己紹介）	PROGRAM 1（自己紹介）
	5 年 Project 2（自己紹介）	Out Project 1（自己紹介）
	6 年 Lesson 4（日本紹介）	PROGRAM 4 & 8（日本の伝統と文化）
	5 年 Lesson 5（道案内）	Power-up 3（道案内）
	5 年 Lesson 6（あこがれの人紹介）	Our Project 2（他者紹介）
E	5 年 Unit 1（自己紹介）	Unit 1（自己紹介）
	6 年 Unit 1（自己紹介）	Stage Activity 1（自己紹介）
	5 年 Unit 4（身近な人紹介）	Unit 2（身近な人やものの紹介）
	5 年 Unit 5（道案内）	Unit 3 & Let's Talk 3（道案内）
	6 年 Unit 4（夏休みの思い出）	Unit 5（夏祭りの思い出）
	5 年 Unit 4（身近な人紹介）	Unit 6（他者紹介）
	5 年 Unit 7（日本の文化・行事）	Unit 7（日本の芸能を演じる外国人）
	5 年 Unit 8（ヒーロー紹介）	Stage Activity 2（ヒーロー紹介）
	6 年 Unit 7（小学校の思い出）	Unit 11（一年の思い出）
	5 年 Unit 6（注文する・値段をきく）	Stage Activity 3（一年の学校行事） Let's Talk 4（注文する）
F	5 年 Lesson 1（自己紹介）	Lesson 1（自己紹介）
	6 年 Lesson 1（自己紹介、好きなこと）	Lesson 2（好きなもの・趣味）
	5 年 Lesson 9（友達になりたい人紹介）	Lesson 3（家族や有名人紹介）
	6 年 Lesson 4（夏休みの思い出）	Lesson 4（夏休みの思い出）
	6 年 Lesson 9（あこがれの中学校生活）	Lesson 5（学校生活の違い）

これらの中学1年生の教科書での小学5・6年生の教科書の題材や使用場面の扱いの分析から、以下にまとめと考察、指導のポイントを示す。

まとめと考察

中学1年生(中1)の教科書には、小学5・6年生(小5・6)の教科書と共通のトピック(題材)や使用場面がある。最も多いトピック(題材)は「自己紹介」、次に「夏休み(冬休み)について」「他者紹介」や「日本の文化・行事・伝統等について」であった。また、中1と小5・6で最も共通のトピック(題材)が多かったのは、E教科書であった。共通のトピック(題材)や使用場面があることで、生徒は既習表現や語彙を活かしながら、その内容を深め、無理なく言語活動を展開・発展させることができ、自信につなげられる。

指導のポイント

生徒の実態や興味・関心に合わせて上手に使える、小学校の学びを十分活かすことができ、外国語科の目標である「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーション活動」(文部科学省, 2017b)を創り出すことができるであろう。

6.5. 付録 小中接続を意識した独自のページ

さらに、小6と中1どちらの教科にも接続を意識したページがある。そこで、どのような内容かを調査し活用方法を探る。

表8 小中接続を意識した独自のページ

	小6教科書	中1教科書
A	・5領域のCan Do List (1ページ)	・Let's Start: 既習語彙と表現, アルファベット文字等 (14ページ)
B	・6年生で学習した主な表現 (1ページ)	・Starter: アルファベット文字と音, 既習語彙と表現等 (8ページ)
C	・「中学校へ向けて」中学の英語学習方法や英語のしくみ (2ページ) ・6年生で学習した表現の確認 (2ページ)	・Let's Be Friends!: 既習語彙と表現, 数, アルファベットの文字と音, 学び方 (22ページ)
D	・「中学校へつなげよう」語順, 過去形, 単・複数形, 外来語, 発音 (10ページ) ・この教科書で学んでことリスト (6ページ)	・Get Ready: 既習語彙と表現, 自己紹介カード作り (8ページ) ・PROGRAM 0: アルファベット文字と音, 辞書の使い方 (7ページ)

E	・「中学校へ進むあなたへ」学習の整理： be 動詞と一般動詞の肯定・疑問・否定文（1 ページ）	・Unit 0: 既習語彙と表現、アルファベットの文字と音、辞書の使い方、文を書く時のルール（6 ページ）
F	・Plus Activity：これまで学んだことを使って My Book に自分のことを書く（1 ページ）	・Springboard: 既習語彙と表現、アルファベットの文字と音、Classroom English（10 ページ）

小中接続を意識した独自のページの分析から、まとめと考察、指導のポイントを示す。

まとめと考察

どの中1の教科書も小学校の学びを振り返るページ（Let's Start, Starter, Let's Be Friends! Get Ready/PROG RAM 0, Unit 0, Springboard）が設定されている。小6の教科書では、小学校の学びのまとめや復習のページが、ページ数は少ないながら設定されている。また3社の教科書（C, D, E）は、中学校の学習に触れたページもある。これらは、主に小学校で学習した内容を整理し、中学校での英語学習に期待をもたせる目的と考えられる。

指導のポイント

中学校では、復習だからといって指導をしないということはせず、これらのページを活用して生徒が安心して中学校での学習をスタートできるよう配慮すべきである。特に、小学校3年生から英語に触れ、5・6年生では教科として学習する中で、中1の4月の時点で生徒の中に学力差や意欲の差が生まっている可能性は否定できない。中学校からでも十分やり直しができる、あるいは新たなスタートが切れるという安心感を与え、頑張ろうという意欲を支援するためにも、小学校の復習を丁寧に行うことが指導において大切である。また、出身学校の英語の学習状況を調査し、個々の生徒の英語能力を見取るためにもこれらの接続のページを役立てたい。

小学校では、小学校の学習の先に中学校の学習がある、つながっていて別の学びではないことを児童にしっかり理解させ、不安なく期待を持って中学の英語学習に向かうことができるよう配慮する必要がある。特に6年生の3学期には、今までの学習をふりかえり、学んだことを確認したり復習したりしたうえで、児童が中学校の英語学習に期待が持てる様きちんと説明することも必要であろう。

7. 考察と課題

最後に分析してきた内容を基に本研究全体の考察をする。小中接続の視点から行った6社の教科書分析では、ほとんどの教科書が中1の1学期間あるいは夏休み前までの期間を費やして小学校で学んだ「文及び文構造」を理論的・体系的に、しかも図等を用いて視覚的に分かりやすくまとめ、小学校の学習内容を「文法事項」として定着を図ろうとしている。しかしながら、懸念もある。まず、未習の文法用語のために学習の入り口で戸惑わないように注意すべきである。次に、中学校学習指導要領が求める「異なる表現の中で活用できる」工夫は、各教科書によってさまざまであった。そこで、使用する教科書の特徴をよく理解した上で、小学校間での指導のばらつきや個人差にも注意しながら、目の前の生徒たちに合わせて教科書をアレンジしながら使用していく必要がある。

また、中学校では小学校とは異なり「正確に書く」指導や小学校の学びとの接続の観点から、言語運用能力をさらに高めるための「言語活動」も求められている。そのため、中1の教科書では「書く」活動が格段に増え、生徒の負荷を抑え効率の良い学びとなるよう、小学校の語彙・表現の活用や題材・使用場面のつながりを重視している。ただし、小学校で学んだ語彙や表現の中には、まだ十分に文字だけで読めない生徒もいるという認識も必要である。その上、「書く」活動の重視により、小学校で育ててきた「話す」言語活動の機会が少なくなる傾向にある。しかし、話す力の要素となる即興力の育成も中学校外国語科の目標の一つである。即興力は、小学校の「その場で伝える力」を土台とし育む必要がある。この点を意識した指導も必要となるのではないだろうか。中学1年の指導においては特に、生徒が小学校の学び方との大きなギャップを感じて不安が高まらないよう、小学校で重視している「話す」言語活動を中学校でも大切にその力をさらに高めていくという姿勢を指導者がしっかり授業で示すことが大切である。

さらに、小学6年生と中学1年生の接続の期間、どのような指導を行えばよいのか。ここまで教科書の接続の工夫を活かすために、中1の教科書を使った指導のポイントを述べてきたが、スムーズな接続には小学校の準備も重要であると考え。中1の教科書の小学校の復習の期間に挙げられた内容を小学校でしっかり指導できているのか、具体的には、アルファベット文字の音と文字を含む文及び文構造とそれらを活用した言語活動等を再度見直し、ゴールを見据えた指導をしっかりと行うことが大切である。

もちろん、指導面だけでなく物理的な小中連携も一層必要になってくるであろう。小中連携については、中学校学習指導要領解説（文部科学省，2017b）でも触れられているが、地域の実情を加味した工夫を考えていく必要があり、今後も検討課題と考える。

最後に、本研究は研究者一人で行ったため、その検証等も今後の課題と捉えている。

尚、本稿は2022年7月19日に開催された第22回小学校英語教育学会（JES）四国・徳島大会における口頭発表「中学1年生の外国語（英語）教科書分析－小中接続の視点から指導のポイントを探る－」（白土 2022b）の内容を大幅に加筆・修正したものである。

謝辞

本研究は科学研究費補助金（若手研究：21K13067）の助成を受けている。ここに感謝の意を表する。

引用文献

- アレン玉井光江・阿野幸一他（2020）.『New Horizon Elementary English Course 6』東京書籍.
- 卯城祐司・中嶋洋一・西垣知佳子・深澤清治他（2021）.『Sunshine ENGLISH COURSE 1』開隆堂.
- 太田洋・小泉仁他（2021）.『Here We Go! ENGLISH COURSE 1』光村図書.
- 景浦攻他（2020）.『Blue Sky elementary 6』新興出版社啓林館.
- 笠島準一・阿野幸一・小串雅則・関典明他（2021）.『NEW HORIZON English Course 1』
- 金森強・本多敏幸・松本茂他（2020）.『One World Smiles 6』教育出版.
- 狩野晶子他（2021）.『BLUE SKY English Course 1』新興出版社啓林館.
- 小泉仁・加賀田哲也他（2020）.『Here We Go ! 6』光村図書.
- 酒井英樹他（2020）.『CROWN Jr. 6』三省堂.
- 清水貴美子.（2019）.「外国語教育における小中連携のあり方－小学校での学びを中学校でいかすために－」.
- <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2019/12/beb0edbad36301218659339e1a7350bc.pdf>
- 白土厚子.（2022a）.「小学校外国語科用検定教科書と We Can! の比較分析－4 技能の言語活動の視点から－」.『津田塾大学言語文化研究所報』第 37 号, 110-124.
- 白土厚子.（2022b）.「中学 1 年生の外国語（英語）教科書分析－小中接続の視点から指導のポイントを探る－」.『第 22 回小学校英語教育学会（JES）四国・徳島大会要綱集』p. 80.
- 鈴木浩之・高野敬三他（2020）.『Junior Sunshine 6』開隆堂.
- 根岸雅史他（2021）.『New CROWN English Series 1』三省堂.

本多敏幸・金森強他 (2021).『ONE WORLD English Course 1』教育出版.

松本志津子・染谷藤重. (2021).「小中英語科の接続の分析を活かした中学校英語の高度化について」
『教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要』第3号, 199-208.

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/Cece/3-22.pdf>

文部科学省. (2016).『幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』.

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/___icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf

文部科学省. (2017a).『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』開隆堂.

文部科学省. (2017b).『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』.

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/___icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_010.pdf